

一方通行の授業

よくある授業風景

「～について、△△からわかることはありますか?」「○○です。」答えがキーワード(単語)だけになっています。このような光景を見ることがあります。授業が「一方通行」になってはいないでしょうか。生徒は、他者に自分の考えや意見を正しく伝えられているでしょうか。また、授業者は、生徒の“アウトプット”(説明・表現)する場や機会を確保し、適切に評価できているでしょうか。授業者は、生徒が「読めた」かどうかを生徒の「話す」「書く」姿で把握・評価するようになります。

「授業づくり」の基本として

授業づくりでは、どのような実態があるのか、何につまずいているのか、なぜ、つまずきが生じるのか、どんな「見方・考え方」を働かせればよいのかを考えます。そして、何を課題とするのか、課題解決の見通しや必要な活動や発問、支援などを考えます。重要なのは、どうなってほしいのか、育成すべき資質・能力とは何か、どのように評価するのかなどの「指導観」です。

つまずきや困難さを予測できる、すると、授業者の指示や発問が変わる、そして、授業が変わる、ついには、読解力が向上するという流れが理想です。

汎用的な基礎的読解力

リーディングスキルテスト(RST)では、汎用的な基礎的読解力を診ています。これが高いと、自学自習する力が高く、授業内容を理解する力が高くなります。すなわち学力向上につながります。

逆に、汎用的な基礎的読解力を身に付けないと、教科書が読めない、一人で勉強できない、新しい知識を獲得できない、テストの結果も悪い、やる気がでないとなります。

これからの授業

RSTの結果から70%が該当するボリュームゾーンの生徒が、教科書を読めるようにすることが大切です。今の教科書は、ボリュームゾーンよりも上のレベルになっています。能力値-1.5以下の生徒に対しては、全員が答えられる質問を一つ用意します。また、共書きなどにより、学習課題を書けるようにすることが重要です。

RSTに比べて全国学調の結果が低いのは、田舎に多いそうです。下位層に合わせすぎるのです。かわいそうがる傾向があります。これは、中学校に多いそうです。授業では、難しい発問を一つ用意しておくことも重要です。

授業の中で、生徒のアウトプットの機会、書くだけでなく発表や話し合いが増えれば増えるほど、汎用的な基礎的読解力も学力も上がっていくはずです。アウトプットを増やし、一方通行の授業を改善していくことが求められます。